

博物館だより



No.101

平成26年9月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

平成26年度

歴史文化カレッジ受講生募集

歴史文化カレッジとは

みやこ町と周辺地域の歴史と文化を楽しく有意義に学ぶ、講演会を主体とした学習事業です。

町内のさまざまな施設を会場に講演会のほか、体験学習や舞台公演など、バラエティ豊かな学びの場を提供します。

歴史文化カレッジが目指すもの
カレッジでは、事業によるさまざまな学びを通じて、皆さんに次のような場や機会を提供したいと考えています。

- ・地域の「宝」の再発見
- ・郷土に対する誇りの醸成
- ・文化を活かした町づくりの意識づけとその向上
- ・町の文化振興をけん引する人材の発掘・養成

受講の申し込み

- ・個人で申し込む場合
博物館に電話で登録の申し込みをして下さい（TEL33-4666）。
- ・町外在住者も申し込み可
- ・団体で申し込む場合
博物館備え付けの「団体登録申込書」でお申し込みください。
- その他
演題等内容が一部変更になることがあります。

申込者が多数の場合、会場が変更になることがあります。

歴史文化カレッジ開催スケジュール

開催日・開催場所	時間	内容など
■平成26年 9月28日(日) ■当館研修室	13:30~ (約90分間)	講演会① 「豊前神楽の湯立について」 別府大学教授 段上達雄氏
■10月18日(土) ■みやこ町中央公民館	13:30~ (約90分間)	講演会②/古墳まつり/作文・絵画コンクール表彰式 「古墳時代の北部九州」国立歴史民俗博物館教授 広瀬和雄氏 終了後「歴史たんけん作文コンクール」および 「私の町の過去・現在・未来絵画コンクール」表彰式
■11月24日(振替休日) ■育徳館高校「思永館」	13:30~ (約90分間)	講演会③(特別講演会) 「(仮題)古民家の再生と日本の文化」 日本文化研究家 アレックス・カー氏
■12月7日(日) ■豊津公民館	13:30~ (約90分間)	体験学習 「実感!体感!神楽教室」上伊良原神楽保存会
■平成27年 1月31日(土) ■みやこ町中央公民館	13:30~ (約90分間) (約60分間)	講演会④/演舞(創作神楽) ・第1部:講演「豊前神楽の過去・現在・未来」 豊前市総合政策課 栗焼憲児氏 ・第2部:演舞「求菩提鬼伝説」豊前神楽集団「若楽(じゃらく)」
■3月7日(土) ■豊津支所別館	13:30~ (約90分間)	講演会⑤ 「豊前神楽の調査とこれからの課題」 福岡県文化財保護課 久野隆志氏



お知らせ

**改修工事にともなう
長期休館について**

改修工事の実施にともない、当館は、来る10月1日から、来年11月2日まで休館いたします。

この間、皆さまにはご不便をおかけいたしますが、博物館・文化財業務は、仮事務所を左記に設けて、各種の問い合わせ等に対応いたします。ご理解、ご協力のほどお願いいたします。

◎仮事務所の場所

みやこ町役場豊津支所2階
(201会議室)

◎順路

豊津支所正面玄関を入り↓すぐ左の階段をあがる↓2階まで階段をのぼりきった突当りの部屋

◎電話

0930-33-4666

※現在使用している博物館の電話番号と同じです。

9月期歴史講座 開催日のご案内

- 【漢詩紀行講座】
9月6日(土) 9時30分
- 【古文書講座】
9月13日(土) 10時00分
- 【古典かな講座】
9月20日(土) 9時30分
- 【金曜古文書講座】
9月26日(金) 10時00分
- 【みやこ学講座】
9月27日(土) 10時00分

みやこの歴史発見伝78 《古文書が語る村の生活と文化17》

続命院の山車

と信託書

生立社八朔神幸之節、当村分鎊車差出来候所、右車輪去ル天保十二年二相成候所、最早近年朽損相用兼候得共、是迄ハ刷木抔仕仮成相用來候処、当年二到候何分難相用罷成候間、木筋方々穿鑿仕候得共、一向宜木無御座(中略)然ル所、帆柱村鳴戸申御上り山内へ御座候概、萌入二相成御用筋へ相立兼可申候得共右車輪丈取方出来可申見込御座候間、何卒格別之御慈悲を以て方御免被 仰付候様奉歎願候 (後略)

八朔神幸 現在、五月に行われている生立八幡宮の神幸祭(福岡県指定文化財)は、明治十年代まで旧暦八月朔日(現九月初旬)に行われていたので「八朔神幸」と呼ばれていました。現在は、曳山(山車)二基と昇山六基が奉納されていますが、明治初年の段階では、曳山二基、昇山七基、笠鉦四本が氏子村から奉納されていました(永井文書 明治五年「申御用日記」七月十七日条。その内、

上に掲げた史料は、明治四年(二八七二)七月、仲津郡続命院村(現みやこ町犀川続命院)の庄屋と百姓惣代が豊津藩(旧小倉藩)に提出した歎願書です。解説文は次のとおり。

【解説文】

申上演説覚

生立社八朔神幸之節、当村分鎊車差出来候所、右車輪去ル天保十二年二相成候所、最早近年朽損相用兼候得共、是迄ハ刷木抔仕仮成相用來候処、当年二到候何分難相用罷成候間、木筋方々穿鑿仕候得共、一向宜木無御座(中略)然ル所、帆柱村鳴戸申御上り山内へ御座候概、萌入二相成御用筋へ相立兼可申候得共右車輪丈取方出来可申見込御座候間、何卒格別之御慈悲を以て方御免被 仰付候様奉歎願候 (後略)

曳山二基は、昔から変わらず、続命院村と山鹿村(現みやこ町犀川山鹿)が奉納してきました。山車の車輪

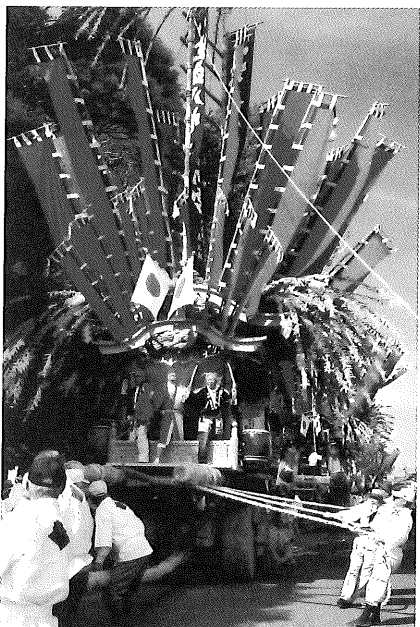
上掲史料によると、続命院村の曳山は、天保十二年(二八四二)に車輪を取り替えたのですが、明治四年の段階で三十年程が経過して朽ち損じてしまっていたようです。そこで、あちこち捜したところ、祓川最上流の帆柱村(現みやこ町犀川帆柱)の内「鳴戸」という場所で、樗(楓)の巨木をみつめました。この樗は高さ・幹回り共に約5mのサイズで、「萌入」(「もめ」は木材の繊維が破断した部分のこと)のため他の「御用筋」には役立ちそうになかったのですが、山車の車輪を作ることは可能なものでした。

この願いが藩に提出されたのは、明治四年七月初旬でしたが、十二月に至って漸く許可されました。この間、豊津藩は豊津県となり、さらに十一月には豊津

のでした。未来の世代へ

本年三月、続命院区の皆様のご尽力によって新規に製作された山車が初披露され、落成式が行われました。車輪の材木は、さまざま吟味のうえ、遠く熊本県菊池郡菊陽町で最適な楠を入手したそうです(旧山車の主要部材は保存)。一方、上掲史料でみた帆柱村産樗の車輪が、その後いつまで用いられたのか、記録が無いため分かりません。今回新調されるまで使われていた旧車輪の材は、樗ではなく楠とみられていますので(科学的な樹種同定は行われていないので推定)、それが正しければ、明治四年以降に、少なくとも一回は車輪を取り替えていることとなります。

いずれにしても、今回の山車の新調により、伝統ある行事を未来の世代へ引き継ぐ礎が一つ整ったことは間違いありません。(川本英紀)



▲続命院の新しい山車(平成26年5月撮影)